

特集 国際交流のミライ～国境と言葉の壁を超えて～

大地震を経験した二つの市

栗原市から約2500キロメートル離れた地。南シナ海に浮かぶ島国、台湾の中部に南投市は位置しています。年間の平均気温は20度前後、温暖な気候かつ土壌が肥沃なことから農業が盛んで、パイナップルやウーロン茶などが特産品となっています。

両市の間には、大地震を経験したという共通点があります。南投市は、1999年（平成11年）9月21日に発生した921大地震（マグニチュード7.6）で被災。建物の倒



壊など大きな被害を受けましたが、現在は復興を遂げ、当時の被害を後世に伝える記念館が整備されています。

栗原市では、平成20年岩手・宮城内陸地震の経験や記憶を

伝えるとともに、市の自然環境や歴史・文化などを地形・地質と結び付け、市全域を栗駒山麓ジオパークとして整備しました。

こうした縁をきっかけに、



▲市街地の風景

●**両市の交流の歩みや、南投市の名所を知るには**

●**栗原市公式ウェブサイト「姉妹都市」**

URL <https://www.kuriharacity.jp/w/010/020/020/090/010/PAGE0000000000006214.html>

●**南投市公所公式観光サイト**

URL <http://ntc.emmm.tw/>



▲①②一迫小学校と南投縣新豐國民小學の児童たちの交流 ③両市の選抜チーム同士で行われた親善野球大会 ④市役所で行われた交流座談会



【特集】国際交流のミライ
～国境と言葉の壁を超えて～

栗原市と台湾南投市との交流が始まってから8年、姉妹都市提携を締結してから3年の月日が経ちました。

文化や教育、スポーツなど幅広い分野で協力してきた両市の交流のあり方は、変化を迎えようとしています。

これまで築いてきた友好の絆をさらに発展させ、未来へとつなげていくためには、どのようなことが大切なのか。

今月は、両市の国際交流のこれからについて考えます。

草の根交流、始まる

今年の9月上旬、新型コロナウイルス感染症の影響で休止していた対面交流を、5年ぶりに再開しました。

南投市からは、小学生と大人合わせて28人が来訪。親善野球大会や、市内小学校の児童との交流などが行われた他、市役所において今後の交流のあり方を話し合う、座談会が開催されました。

これまで、交流の主体は行政で、市民間の交流はほとんどありませんでしたが、今後は主体を民間に移し、草の根交流の展開に向け、協力を続けていくことを座談会の中で決定しました。